

事業概要説明シート

事務事業番号

10501360016

事務事業名	ふれあいルーム補助事業		
事業開始年度	2006(H18)年度	担当部署	子ども青少年部 子育て支援室

根拠法令	枚方市ふれあいルーム事業助成金交付要綱						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託又は指定管理(委託先又は指定管理者:)						
	<input type="checkbox"/> その他()						
目的 (何のために)	市民団体等と連携し、絵本を通じて親子のふれあいを促進することにより、子育てに対する保護者の負担感の軽減及び子育て力の向上を図るとともに、子どもの読書活動を推進することを目的とする。						
対象 (誰・何を対象に)	絵本を通じて親子の交流ができる場である「ふれあいルーム事業」を実施するNPO、市民団体						
事業内容	市内8か所の図書館等で月2回または4回程度、絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びなどを実施することにより、親子の交流の場を提供したり、子育てに関する知識・情報の提供、子どもが読書に親しむ機会の提供や乳幼児向きの本の選定など保護者への支援を行うNPOや市民団体に対して助成金を交付する。 【助成金額】月2回の団体:年額12万円 月4回の団体:年額24万円						
類似事業	おはなし会(乳幼児対象:市内図書館・分室で実施)						
事業の必要性	絵本を介した親子のふれあいや、月齢の近い子どものいる親子同士が交流する場を提供することで、子育てに関する保護者の不安や負担感の軽減を図る。また、NPOや市民団体の活動を支援することで、在宅で子育てしている乳幼児の親子を支える担い手の育成につながる事が可能となる。さらに、子ども期の読書は、言葉を学び、創造力を豊かなものにし、生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものであることから、乳幼児期から読書に親しむ環境を整えるためにも必要な事業である。						
コスト	H23年度決算		H24年度決算		H25年度当初予算		
	従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費	
正職員	0.15人	1,214千円	0.14人	1,120千円	0.10人	791千円	
再任用職員	人	0千円	人	0千円	人	0千円	
非常勤職員等	人	千円	人	千円	人	千円	
人件費計(A)	1,214千円		1,120千円		791千円		
直接経費(B)	1,800千円		1,770千円		1,800千円		
総事業費(A+B)	3,014千円		2,890千円		2,591千円		
財源内訳	H23年度決算		H24年度決算		H25年度当初予算		
	国庫支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
府支出金	1,048千円	614千円	1,048千円	千円	千円		
受益者負担(使用料等)	千円	千円	千円	千円	千円		
その他	千円	千円	千円	千円	千円		
一般財源	1,966千円	2,276千円	1,543千円	千円	千円		
平成24年度 事業費の主な内訳 (人件費除く)	内 容					金 額	
	ふれあいルーム事業経費(補助金:8団体分)					1,770千円	
						千円	
					千円		

事業概要説明シート

事務事業番号

10501360016

事務事業名	ふれあいルーム補助事業		
事業開始年度	2006(H18)年度	担当部署	子ども青少年部 子育て支援室

20

	活動指標もしくは成果指標	単位	H23年度	H24年度	H25年度(見込み)
活動実績	① ふれあいルームを利用した延べ人数	人	15,135	16,041	16,500
	②				
	③				
単位当たりコスト (総事業費/活動指標)	① 総事業費/延べ利用人数	円	225	160	157
	②				
	③				
成果目標 (目標とする成果)	絵本を通じて子どもと保護者の交流の場を設け、子育てに対する保護者の負担感の軽減や子育て力の向上を図るとともに、子どもの読書活動を推進する。				
比較参考値 (他自治体での事業の例など)	独立行政法人 国立青少年教育振興機構の「子どもゆめ基金」事業のメニューに、子ども読書活動を行う団体への助成金交付事業がある。また、子どもの読書活動を含め市民活動を推進する趣旨の活動を行う市民団体に助成金を交付する自治体は多く見受けられる。				
特記事項	<p>平成18年度の試行実施を経て、19年度より本格実施。開設時間中は自由に入退室でき、気軽に参加できるため、毎年順調に利用者が増えている。平成25年3月に実施した利用者アンケート(下記【参考】を参照)では、「とても良かった・良かった」合わせて89%、「今後も参加したい」と回答した方が90%となっており、利用者の満足度は高い。また、枚方市子ども読書活動推進計画(第1次計画は平成18年、第2次計画は平成24年策定)において、市民グループと連携した地域・家庭における読書活動推進に資する事業として位置付けている。</p> <p>類似事業である「おはなし会」との違いとして、開催時間内には自由に入退室が可能であることや、絵本の読み聞かせを中心としながらも、季節に応じた制作など親子で楽しめる多彩なメニューを取り入れて実施していることが挙げられる。参加しやすい形態や、子どもを飽きさせないための工夫を取り入れることで、今後も利用者の増加や定着を図る。</p> <p>【参考】(平成25年3月は延べ630世帯が参加、うちアンケート回答358人) <主な設問と結果> ①子どもの年齢(0～2歳が86%) ②参加動機(「楽しそう」「親同士のつながりをつくりたい」がそれぞれ60%超) ③参加して良かったか(「とても良かった」「良かった」で89%) ④参加回数(79%が複数回参加) ⑤開催日数・曜日の設定(「良い」が80%超) ⑥今後の参加希望(「参加したい」が90%)</p>				
一次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策(平成24年度)	現状のまま継続	引き続き、子どもとその保護者の交流の場を設け、保護者の負担感の軽減と子育て力の向上を図る。			
一次評価結果(平成24年度)	・事業自体の有効性の検証が必要では				
二次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策	現状のまま継続	本事業の実施後は図書館の貸し出しが増えることから、乳幼児期から読書に親しむ機会の創出となっていること、また、NPO・市民団体による事業への助成であるため、地域における子育て支援の担い手の育成につながることも、有効な事業である。 利用者も増加していることから、さらに効果的な周知に努め、在宅の子育て親子への支援の充実を図る。			